

ETロボコン2023開催発表会
参加団体による活用事例紹介

九州産業大学チームの例

ETロボコン2022「Smart Reborns」 「KERT-B3」

九州産業大学 理工学部 情報科学科

安武 芳紘

もくじ

- チーム紹介と自己紹介
- 教育とETロボコン
- 大学の支援
- 教員によるサポート
- 2022年度のスケジュール
- 学生の成長
- おわりに

チーム紹介と自己紹介

九州産業大学

- 総合大学（文系、理工系、芸術系）
- 理工学部 **情報科学科**
 1. プライマリークラス「KERT-B3」
 2. アドバンストクラス「Smart Reborns」

自己紹介

- 安武 芳紘（やすたけ よしひろ）
- 2002～3年 ロボカップ4足リーグ参加
 - **ハードウェア共通、ソフトウェアで競う**
 - モデル評価はない
- 2013年～ **ETロボコン九州地区実行委員**

2013年	CS大会出場
2017年	CS大会出場
2018年	CS大会出場（2チーム） ADV総合3位
2019年	CS大会出場
2022年	CS大会出場（2チーム） PRI競技優勝、ADV競技優勝

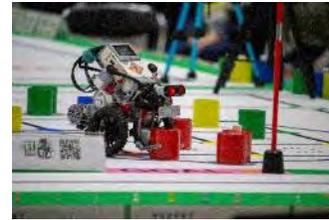


2022年の学生チームと教員

教育とETロボコン

組込みシステム教育が1つの柱

- カリキュラムに組み込まれている
- 1名の教員が**すべてに関係**

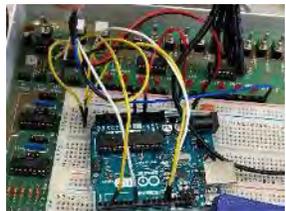


ETロボコンへ参加!
学修したことを発揮する場



システム開発プロジェクト

実践的なシステム開発をする**PBL**
システム設計科目



ソフトウェア×ハードウェア

基礎知識・技術をソフトとハードの両面から学ぶ
複数の**組込みシステム**に関する科目、**JABEE認定**

大学の支援

大学のプロジェクト型教育に認定

✓資金

- 産学官連携による商品開発や技術開発、イベント開催など115のプロジェクト
- 研究費とは別

ゼミナール室 1 部屋を占有

✓コース設置

- 他にプロジェクト室、ゼミナール室、演習室など

プロジェクトベース設計演習に基づくロボット
コンテスト等への参加

学部・大学院

理工学部 × ETソフトウェアデザインロボットコンテスト(ETロボコン) × 九州組込みソフトウェア
コンソーシアム(QUEST)



KSUプロジェクト型教育

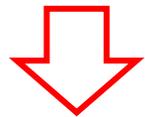


コース設置の様子

教員によるサポート

2013年より前：サークル的

- 学部内で参加学生を募集
- 有志の学生が自由に活動
- 教員は必要に応じてサポート



2013年以降：ゼミ的

- 研究室配属≒参加募集
- ゼミ生は**授業** + 自由に活動
- 教員は**ゼミ生を指導** + サポート



研究室紹介の1コマ

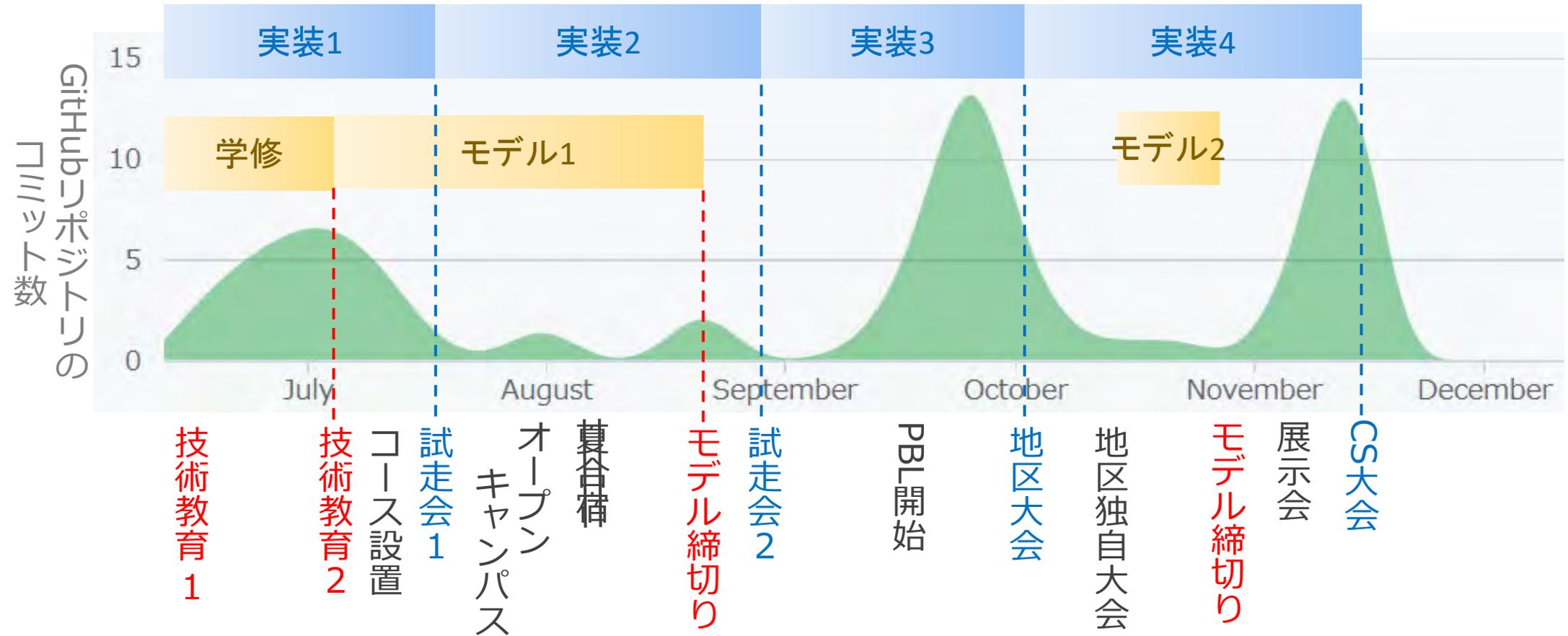
学生にとって

- 最初のハードルが低い
- 卒業に関わる活動という安心感

教員にとって

- 指導計画を立てやすい
- 卒業研究と同じ進め方

2022年度のスケジュール



学生の成長

PBLの学びを実践する

- プロジェクト運営
- 上流工程からの設計・開発



社会人基礎力の向上
重要な1ステップを経験

技術者や支援者との交流

- 社会人や他の学生・生徒の姿
- 周囲から受ける期待



ETロボコンで学生は挑戦者
結果がでる/でないとは？

就職活動に活かす

- 学生時代に力を入れたこと
- 活動を知らない人へ説明



就職してもETロボコンと
やっていることは同じです
from ある卒業生

おわりに

ETロボコンは学びを実践する貴重な場

↓ 学びと結びつける

さまざまな支援が充実する、学生は安心して活動できる

↓ 成果

社会が求める人材の育成につながる

今後の目標

- モデルや設計に関する教育の強化
- 総合大学（芸術系もある）であることの活用